

千葉県内の保護林における取組の紹介

千葉森林管理事務所 池田 一穂

千葉県内の保護林とその設定目的

①元清澄山ツガ・ヒメコマツ遺伝資源希少個体群保護林

場所：千葉県君津市 千葉南部森林計画区 60林班い1小班外

目的：房総半島において数少ない、モミ、ツガを主体とし、ヒメコマツ、キヨスミミツバツツジを含む群落の希少な個体群を保護するために設定。

②南房総モミ希少個体群保護林

場所：千葉県夷隅郡大多喜町 千葉南部森林計画区 32う1林小班外

目的：モミを主体とする房総半島南部の代表的な針広混交の天然林で、学術上貴重であり、群落の希少な個体群を保護するために設定。

各保護林での主な取組の紹介

①元清澄山ツガ・ヒメコマツ遺伝資源希少個体群保護林

○房総丘陵のヒメコマツ個体群

- ・ヒメコマツの標高分布限界
- ・気候的にも暖温帯に属する特異な分布
- ・約1万年前までの最終氷期から局所的に残った遺存分布
- ・隔離された個体群であり、孤立度合いが強い



保護林位置図



上記のような希少性から、千葉県ヒメコマツ保全協議会において、「千葉県ヒメコマツ回復計画」（左図）が策定され、生存個体に対する予防措置や生育域外保全等の緊急措置を実施されるとともに、科学的な蓄積に基づきヒメコマツとその生育域の生態系の相互作用の回復が図られている。（千葉森林管理事務所も参画）



有識者ヒアリングのもと、国有林内に現存する25本のヒメコマツ成木の生育状況調査・樹幹注入（請負）及び稚樹・若木の保全を目的とした獣害等対策（職員実行）を実施した。



樹幹注入(令和5年度実施)



生育状況調査(令和5年度実施)



ヒメコマツ稚樹



獣害等対策(令和6年度実施)

②南房総モミ希少個体群保護林

○モミ・カシ混交群落

- ・房総半島南部の代表的な針広混交林
- ・地域の植生遷移を特定するうえで重要な暖温帯のモミ林を形成
⇒房総半島におけるモミ林の生態的位置や今後の遷移について重要な資料となる。



保護林位置図



保護林内の現況として、老齢のモミ等は健全状態であるが、次世代を担う低木や稚樹についてはニホンジカ等による食圧により衰退していると考えられる。



ニホンジカ等の食圧による被害状況の確認を行うため、小規模な獣害防護柵を職員実行により設置し、経過を観察する。

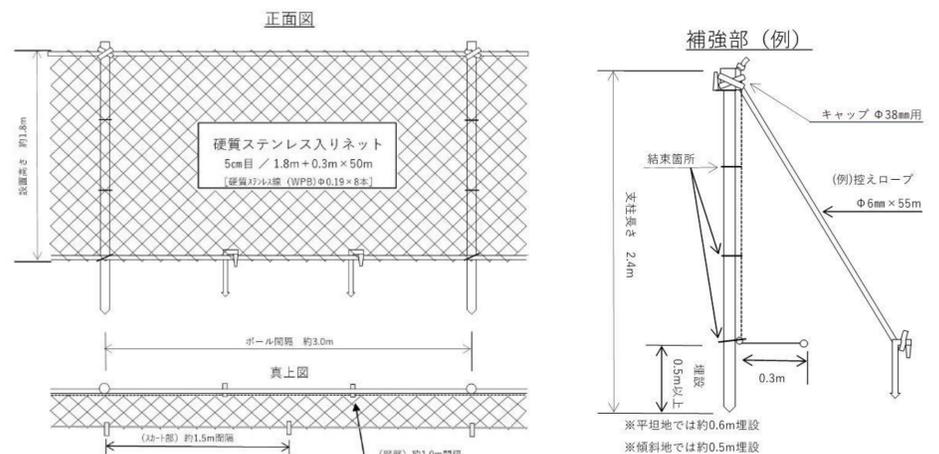


獣害防護柵 設置前



獣害防護柵 設置後

柵内にモミの稚樹を確認



獣害防護柵(縦張ネット) 構造図